

乳房切除術を受けた、 Aさんとお子さん (幼児期 一人)

子どもにも病気を伝える事にあたり、
山あり谷ありでした。

看護師 お子さんにお母さんの病気を伝えるか伝えないかは、退院した後どうしましたか？

Aさん 山あり谷ありでした。入院していた時に、夫も子どもにも病気を伝えるっていうことに同意してくれてたんですけど、退院後にタイミングが取れなく、退院してからも伝えられなくて。しばらく、おばあちゃんに居てもらったんです。子どもがおばあちゃんに対して、「ぼく死にたい」と言い出して。「お母さんが病気になったのは、ぼくがいるせいだ」と。病気になってからも、夫婦喧嘩が絶えなくて、今回の病気のことでも、かなり、夫とのトラブル口喧嘩はありました。それで、「お父さんとお母さんが、ケンカするのはぼくのせいだ」みたいになって、こそこそしゃべってるので自分が除外されると思ったらしく、どんなふううに、……悪くなっちゃってしまっ。私の母に、「このままじゃ大

変だ。死にたいなんて、あの歳の子どもが言っているのは異常だから」って言われて。母親が帰ってから……、どれくらいかな、ちよっと忘れたけど、一カ月は経ってなかったかな。退院後帰ってから、夫とももう一度話をして、死にたいとか言ってるし。私のこと、私が叱ると私にだけ横目で、すごいこう見る（睨む）んですね。最初はそうでなく、だんだん私にだけそういう態度になって、「お父さんにはしないの？」って夫に言ったら、「俺にはしない」って言うから、やっぱり私にだけ。私が叱るとそういうふうにするんでおかしいって。「どうせぼくなんか、どうせぼくなんか」って言うようになって。リーフレットにも、看護師さんたちにも、(子どもの態度が)そのようになるんだよっていうようなことを言われてた。その通りになってるから、子どもにも病気のことを話したいと夫をまた説得しました。それで、とりあえず、段階的に、お風呂に入るのもちよっと、私もショックがあったので……。まず最初に、一緒にできるものを取って言ったけど、お母さんおっぱいがなくなっちゃったっていう話を



しました。それから、私の心の準備ができたら一緒にお風呂に入って、そのあとで、私はそのがんっていうこともちゃんと伝えたいからって話をしました。最初夫は、病名は言いたくないって話していたんですけど、それも何とか説得しました。それで、話すようになって、それから徐々に徐々に、やっと変わっていきました。子どもが小学校に入る時期とダブって、子どもにすごい

精神的な不安が一度にいったみたいなので。それもあって、せめて自分の病気のことでだけでも解決したい思いがあって、小学校に入る前に話しました。

看護師 退院して、一か月間大変でしたね。

Aさん いや……一か月以上ですね。話しているのには、一カ月くらいは、経ったと思いますね。

看護師 伝えてみて、そのあとお子さんの反応はどうだったのですか。

Aさん 子どもは、んーっと……、まずその、自分の中でがんじゃないかって思っていたらしいので、ある意味納得したらしいのと、隠さないでちゃんと話してくれたっていうのもあるんだと思うんですけど。それから、まだ態度は、あんまり変わらなかったんですけど、徐々に徐々に、ほんとに少しづつ変わっていったって感じですね。

看護師 今はどうですか。

Aさん 今はもう、だいぶ普通に。

看護師 普通な感じ。

Aさん ただまた、震災(東日本大震災)……と、それと性格的なのか、心配性と怖がりなので、一時すごく私から離れなくて、病

気の事を言った後もですね、小学校に入っ
て、しばらくしてからも、どこに行くのにもべったりって、感じてましたね。トイレにも一人で行けないくらいで。私が行くのにくっついてくるし、自分が行くのにも、一緒に付いてきて、なんか、そんな感じでしたが、今は徐々に落ち着いてきました。

看護師 病気を伝えたのは一回ですか。

Aさん 何回も確認されました、本人に。子どもに何回も。言った後に。

看護師 時間をおいてから？

Aさん 時間をおいて。なんか、そうですね、確かめる感じで。

看護師 お子さんに、何て言われたんですか？

Aさん 何だったかなあ……忘れちゃったなあ……。うーん、何か忘れましたが、何回も、確認されましたね。子どもの中で、整理してたんですかね……。内容は覚えてないな……。

看護師 伝えたのは、Aさんがお子さんに
伝えたんですか？

Aさん いえ、夫に言ってもらいました。

私は感情的になってしまいがちなので。

看護師 旦那さんは、どんな感じで伝えただんですか？

Aさん 最初はおっばいに、できものができたからってという話を、手術の前にして。その後で、退院してから、実はおっばい無くなっちゃったんだってという話をしました。その後で、一週間か二週間くらいおいてから、実は、その、がんってという病気で、もう全部取ったから、大丈夫だよって話をしました。自分もなんか、その頃大変だったから、よく覚えてないですね。

看護師 大変だったのは、手術した胸の受け入れですか？

Aさん それもあるし、やっぱり、子どものことかなあ……。いろいろ。夫と母親もちょっとうまくいってなくて、間に私が病人なのに入んなきゃいけなかったりとか。そんなこともあって。

看護師 退院してから、大変だったんですね。でも、お子さんに病気を伝えたいんですね。旦那さんから、サポートは何かありましたか？

Aさん 子どものことに関しては、そうですね。退院直後から、子どもにお風呂に入

りたいと言われたけれども、そのへんは最初おばあちゃんがいる時は、おばあちゃんにごまかしてもらって、その後は夫にごまかしてもらって。まだちょっと、私の手術後の胸は見せる……。精神的な準備ができていなかったんです。その間は、そのようにしてもらいましたね。ただ、夫にはあまり子どもは態度が変わらなかったの。

看護師 お子さんの状況が変わって、旦那さんは心配しましたか？

Aさん ……それに関しては……。たぶん……。ないんじゃないかな。夫自身も様子が変わったのを見ていないわけだし。私と一対一の時だけ子どもの様子がおかしかったの。たぶん、夫は気が付かなかった。私が言ったのを聞いただけなので。そんなに子どもが、おかしくなってるって、たぶん夫は分かかってないんだと思うんです。子どもが「死にたい」って言ってる話をしたのもおばあちゃんだし。だから夫は、あんまり知らないと思う。

看護師 おばあちゃんが支援してくれていいんですね。

Aさん その時はそうですね。おばあちゃ

んが結局、ずっと子どもの保育所への送り迎えとか、食事の用意とかいろいろ世話してくれてたので。

看護師 いろいろ大変でしたね。現在Aさんは、手術後の胸のことも、精神的に受け入れていきますか？

Aさん そうですね。ただ私が保育所に送り迎えに行くようになると、子どもが同級生の子に、「お母さん、おっばい無いんだ」とかって、言っちゃうんですね。そこでガンッと私のほうが。「言わないで。お母さん、それがすごいショックなんだから、お友達に言わないでちょうだい」って話したんです。たぶん子どもは、なんていうのかな、ためておけないみたいで、仲がいい子に言っていたんですね。だから子どもの中でも、やっぱりそれは（胸がないこと）、大きい出来事ということなんでしょうね。たまに会うお友達に会った時も、「お母さんおっばい無いんだー」って言って。「もう聞いているー」とか、その友達に言われたりとかして（笑）。まだ言ってる〜とあって思ったりも。最近では、「なんか気持ち悪い」と言われますけど。

看護師 お子さんには？

Aさん おっぱい無くて気持ち悪いって……言われます。たまーに。二、三回言われました。

看護師 お風呂とかの時ですか？

Aさん お風呂と、そうじゃない時とか……。でも基本的にはあまり変わらないうですけど……。たまーに、「あ、そう思ってたのかぁ……。」と、そういう時に改めて思いましたね。

看護師 すんなりいったって感じでは……。

Aさん ないです……。だから、病気を伝えたほうが、子どものためにはいいとは思いますが。

子どもでも、大人でも家族で一緒にいるわけだから、知りたいのはみんな一緒だと思うんです。子どもも疎外感を味わわないし。

看護師 振り返ってみて、一番お子さんに

話しておけばよかったのは、どのタイミングだと思いますか。

Aさん やっぱり手術をする前、入院する

前だと思えますね。ただ、これは私の話ですけど、夫が子どもにも病気を伝えることで、子どもに負担をかけるんじゃないかと。それを言ってしまうことで、私が楽になりたんじゃないかって（夫に）言われて。自分ではその時はそうなのかなとも思ったんです。でも、子どもの性格とか、そのへんは分からないけども、やっぱり知りたいたいのはみんな一緒だと思うんですね。子どもでも大人でも、家族で一緒にいるわけだから。その人に何かあったら、ちゃんと話を聞いて、じゃどうなっていくのか聞いて、だからこうするんだよっていう事を説明するべきだと思う。それで、みんなが納得すれば、子どもも疎外感を味わわないし。そのために手術するんだとか、そのためにまた病院に行くんだとか、子どもの中で納得できると思うんです。（話するのは）やっぱり、手術する前かな。後手後手にまわると、本当に心の傷が大きくなると思います。

看護師 入院して来た時に、お子さんに病気が伝えないと決めていましたが、伝えないと決めた一番の要因は何でしたか？

Aさん それは、夫が、（病気を子どもに

伝えることに）納得しなかったことです。私は言いたいわって、伝える気はありません。こちらに来る前に、他の病院でリーフレットを最初頂いて、それを読んで、伝えたほうがいいというふうに一応書いてあって。そうなんだろうと思いました。最初は、手術が部分切除になるという説明でした。だったら、（話さなくても）大丈夫かなって思ってた。でもその後全摘予定になって。子どもがすごいショックを受けるだろうと思っただんです。（この病院で）再建……？ が、できるっていう話を他の病院の先生に聞いて、それだったら子どものショックも少なくて済むだろうから、再建が可能ならばと考えて受診しました。でも、やめたほうがいいという（医師の）判断で。その時は自分もちょっと、子どもがどう思うのか、がらんっていう病気じゃなくて、おっぱいを見た目で無くなって、それに対して子どもがすごいショックを受けるんじゃないかっていうのは悩みましたけど……。でも、見たら分かることだし……。だからがんでも、それもリーフレットも見てたので、話した

ほうがいいと思っていました。ただ、夫が納得しなかったってことです。

看護師 入院してきた時に、リーフレットや絵本、インターネットとか、保母さんにも相談していたようですが、役に立った情報は何でしたか。

Aさん 基本的には全部ですね。それで看護師さんの話を聞いて。あとはリーフレットとかいろいろ頂いたのも見て。それで納得して、確信していったみたいなき感じでしょうかね。

看護師 お子さんに病気を伝えたほうがいいと。

Aさん 伝えたほうがやはりいいと。そう思っていたけれどね。

看護師 入院してきた時点では、お子さんにどこまで話したいって思いましたか？

Aさん んー……、それも、やはり私と夫とでは違うので、夫の意見を優先しました。胸になんかちょっと、できものが悪いものができたから、取るよっていうところまでしか説明してないですその時は。私はもう、病名も伝えて、全部取ることまでは、ちょっとそこまでは、本当は言ったほうがいいの

かもしれないけど。ちょっと自信がないですけど。手術して面会に来た時に子どもが、「傷見せて」って、しきりに話すので、(病名・全摘のことを)話していれば、子どもは、まあ見せられてショックかもしれないけれども、「ああっ」て納得したかもしれないし……。傷を見せるまでもだいぶ時間が経って……。隠しちゃったっていう……。子どもに傷を隠してしまったので、それまたぶん、子どもの心には傷になったのかなと思います。

看護師 どこまで話すということも、旦那さんと意見の相違もあったんですね。

Aさん そうですね。

看護師 もともと、育児方針は旦那さんの意見で決定していたんですか？

Aさん いや、そういうわけではないかなあ……。ただ、私が入院してしまった後に、夫に結局子どもへの面倒を見てもらうことになるので、それで夫の意見を優先したという感じです。もし、私がない時にいろいろ子どもに言われて、それにちゃんと答えられるのか、答える気構えができていればいいんですけど。夫が言いたくないの

に、無理やり私が勝手に(病気のことを)話していたら、向こうも面白くないだろうから。とりあえず、私は入院で身動きがとれない立場なので、夫にそれは任せるという感じだったんです。

看護師 手術後胸を切除したことがショックと話していましたが、手術した胸の受け止めと、お子さんに病気を伝える、伝えなというのとは、影響していましたか？

Aさん あると思います。やっぱり、ちょっと自分もショックなので、それを見て子どもがもっとショックを受けて、それこそ気持ち悪いなんて言われたら、さらに自分がショックを受けるだろうから、それを考えたらしばらくは、見せられなかったですね。言うのは、言ってもいいけれども見せるのはちょっと見せられなかったですね。そうですね……。もしかして、先に言ってしまったら……。もうちょっと早く、(傷を)見せられたのかもしれないけれど、隠してる状態だったので、やっぱり無くなっただっていうのは言っていなかったので余計なんです。



お父さんとお風呂に入った時に、
「お母さんはがん？ がんなの？」
「お父さんも、がんになったら死ぬの？」
って子どもが言ったらしくて。

看護師 退院間際に、自分たち夫婦でなんとか伝えていこう、前向きに自分たちで伝えようという思いに変わったきっかけは何だったんですか？

Aさん それは、子どもの発言なんです。私が入院中にお父さんとお風呂に入った時に、「お母さんはがん？ がんなの？」
「お父さんも、がんになったら死ぬの？」

みたいなことを、夫に言ったらしくて。それで、これではいけないと（夫が）思ったらしくて。それで、入院中に子どもに言うかかっていう話になったんです。でも、お見舞いに来た時にホールで言おうかと思っただけ、タイミングとか周りの雰囲気とかもあって言えなかったんです。そして、そのままずるずると。夫はまた言わないほうに戻ってしまった……。タイミングを逃すっていうのが大きかったです。

看護師 結局、旦那さんは、タイミングを逃した後に、また、（病気のことを）言わないでおこうってなったのは、お子さんが何も問題ないと思ったからなんですね。

Aさん そうだと思います。夫の前では普通というか、あまり変わらない感じだったから。

看護師 お風呂での会話が唯一の、旦那さんに言ったことだったのですか？

Aさん そうですね。ただ見舞いに来る時に、「ぼく死にたい」って、車の中で言ったらしいです。私の母は、（夫が）聞こえてるはずなのに、「お父さんは、なんで知らないふりをしているんだ」ということも

あって。一回だけでなく、その後も保育所の帰りに、おばあちゃんにも言ったらしく。だからその辺が、夫が本当に聞こえていたのか、聞こえていなかったのか。それとも怖くて知らないふりしたのか、そのへんはちょっとわからない。それは、私も聞いてはいないですけども。

夫婦で私たちみたいに意見が分かれていたら、二人に（思いを）聞いて、一緒に（看護師に）聞いてもらおうほうがいいかもしれないですね。

看護師 旦那さんが、お子さんにショックを与えるからっていう理由で、言わないと決めたのは何だったんですか？

Aさん 夫と同じ会社の人で、自分が中学生の時に父親ががんの手術をした人がいたらしいです。その人は大人になるまでその事実を知らなかったという話を聞いて。だから別に隠しておこうと思えば、隠せるんじゃないかと。ショックを与えないために、みたいなことを言ってたんです。でも、

その人はがんが内臓系で、私はもうあくまで見るところだからそれは無理でしょと。隠せないわけだし、それは考え全然違うから、比べられないという話はしたのでですけど、それでも（夫は）、納得はその時はしませんでした。そういう話はしても。

看護師 なかなか旦那さんに、Aさんの思いが伝わらなかったのですね。

Aさん そうですね。

看護師 手術を決めるまでの受診の間、旦那さんは一緒に来たりしていたのですか？

Aさん えーっと……、節目の時には来ました。しこりがあった時点で、がんだろうと自分では確信して、なんとなく思っていたので。まあ、そう診断されても、「ああ、やっぱりそうか……」みたいな感じでした。ただ、セカンドオペニオンでこちらに来るっていう時に、旦那は仕事が忙しくて付いて行けないみたいなのを言われて。同じ職場の人で、同じ手術をした人がいて、じゃその人に頼もうかなと、いう話をしたら、「じゃ頼めるんなら、その人に一緒に行ってもらえ」って（夫に）言われたんです。じゃあ友達についてきてもらおうと思って、

友達に声をかけて、いざ受診となったなら、「なんで、俺じゃないんだ」みたいなことになって。うーん、そのへんからもうそんな感じで。ずーっと、そうですね。

看護師 いざとなったら出てきたっていうことですか。

Aさん そう。（笑）

看護師 旦那さんも、やっぱりショックだったのでしょうか。妻が乳がんだったということ。

Aさん うーん、あるかもしれないですね。私の兄もがんで亡くなっているのです。夫婦で兄の家族を最期まで手伝っていたので。もしかしたら、そこまで考えたかもしれないです。最悪のことを。

看護師 旦那さんのこれまでの周りの人のがん体験が、影響した感じですか？

Aさん 分かんないけど。怖がり怖がりだと思います。

看護師 入院中に、「看護師さんに、こういう子どものことを、相談できるんだ」って話していましたが、看護師には子どものことを、相談できないメッセージがありますか？
Aさん そういうところまでは、そうですね

ね。今まではね。やっぱり、とりあえず、自分の病気の不安も、もちろんあるし。精神的な病気に付随する、直接は関係のないことでも聞いてもらって、まず聞いてもらうことで気が楽になる、っていうことがあると思うのですけど。（子どもに関しては）実はこういうのがあるんだよ、とリーフレットをくださったり、話をしてくれて実際に立ったと思います。

看護師 入院の時に、お部屋のひと、子どものこととか相談したり、話したりしましたか？

Aさん 話が聞こえていたらしく（笑）、だから、大変だねとかは言われて。退院し





た後も、何人か外で会ったりとかした時に、「どうなの？」って、心配してもらったり、話は聞いてもらったりしましたね。やっぱり、同じ病気の人同士じゃないと分からない、そういうのもあるし。

看護師 リーフレットや、絵本は、退院してから使いましたか？

Aさん 絵本は、入院する前に一回本屋さんで探したけどなくて、夫が頑なに言いたくないと言っている時に、リーフレットをまた見せました。

看護師 リーフレットはあったほうが良かった感じですか？

Aさん そうですね。絵本は、それをその

まま見せてもいいのかどうかちょっと、抗がん剤は私は使ってなかったの、またそういう不安を煽ってしまうのかなって、自分の中でも躊躇しました。

看護師 話がちょっと、自分とは違っていたので、絵本は使わなかったのですね。

Aさん そうですね。あとは、外国と日本の絵本でも違う。やっぱり、日本人の作家の人が描いたほうが、なんかしっくりくる感じはありました。

看護師 どんな点で、しっくりくる感じでしたか？ 内容を見て、こっちのほうが自分にしっくりするという感じですか？

Aさん そう、何となく近いかなあっていう感じがありましたね。

看護師 けっこうアメリカの本も出てて、選択するのにも読んでみないと分からないですね。

Aさん そうですね。そうですね。

看護師 リーフレットで分かりにくい点はありませんでしたか？

Aさん いや、特にはなかったですね。うん、リーフレットを見て言ったほうがいいって、自分でも、『あぁやっぱりそうなんだ』

って納得したので役に立ちましたね。

看護師 リーフレットは自宅でゆっくり読んでみたほうが、子どもに病気を伝えるか、伝えないかを考えられますね。

Aさん うん、やっぱりそれは違うと思いますね。

看護師 入院する前に、医療者と相談したっていう気持ちになりましたか？

Aさん 一度子どものことにも関して他の病院で話を聞いてくれるところがあって、相談したことがあります。

看護師 そういう窓口は知っていたんですね。

Aさん そうです。知っていました。できれば、相談したほうがいいと思います。

看護師 リーフレットだけじゃなく、相談場所があったほうがいい感じですね。

Aさん うん。そうですね。

看護師 振り返ってみて、伝える伝えないということは、今までの経過で入院する前や入院中や退院後において、一番何が影響していたと思いますか？

Aさん うーん、一番は……、やっぱり夫と私の意見が合わなくて伝えられなかった

わけなんだけれども、それも子どものことを考えて、お互いになっていう感じだったと思うんですね。できれば伝えたいほうがいって思うので。もっと、リーフレットがあるならそれを活用するとか、悩んでいる人がいたら、あとは、看護師さんたちがいろんな事例を紹介して、うん、直接生の声を聞けば、また違うのかなとは思いますが。

看護師 事例を聞いたら、違いました？

Aさん あの、今思えば一番これはやばいと思ったのが、手術後に夜、看護師さんとお話して、「どうせぼくは、どうせぼくは」っていう、そういう話になるんだよって、その時は意味が分からなかったです実は。えー？って。でも、しばらくしてから「あー」これのことかと。「どうせぼくなんか、いなきやいいとか、どうせぼくなんか」って、常にそんな感じだったので、それを聞いて『あ、これはちょっとやばい』と。それが一番かな……。これは、やばい、特に。うん。そこで本格的に夫を説得しだしてって

感じですかね。うん、だからそう、生の声が特にいいかと思えます。できれば、夫婦で私たちみたいに意見が分かれていたら、二人に（思いを）聞いて一緒に（看護師に）聞いてもらうとかしたほうがいいかもしれないですね。

看護師 事例が役に立った、情報だったのですね。

Aさん そうですね。

看護師 入院中や退院後に、自分が精神的にきつかったなっていう時期はいつでしたか？

Aさん 病理検査結果が出る前。すごく不安でした。

看護師 その時が一番苦しい時期だったのですね。

Aさん 苦しい、精神的に、不安……。わたし個人的には、手術後私が管（排液ドレーン）をつけているじゃないですか。それが取れるまでは、子どもに関しては、やっぱりちょっと嫌だったかなあ……。

看護師 見られたくないっていうことですか？

Aさん ー、そうですね。見られたくないっていうか、それが取れて、「あ、やっとほら普通になったでしょ」っていう感じだったかなあ。

看護師 手術後管をつけている間は、違和感がありましたか？

Aさん やっぱり、子どもは、最初そこにとぶん目がいつてたんだと思うんで。それを見て、「あー……」っていう子どもも感じだったような気がします。最初にそれ取った時に、「ほらなくなっちゃよ」って、言った記憶があるので。

看護師 お子さんにとっても、Aさんにとっても、管が入っていることは普通じゃないっていう感じだったのですね。

Aさん そうですね。

看護師 貴重なお話を、ありがとうございました。

